



EtherNet/IP™ 通信変換器 **COM-ME-2** [SRZ対応版] 設置・配線取扱説明書

IMR02E40-J1 All Rights Reserved, Copyright © 2022, RKC INSTRUMENT INC.

本製品をお使いになる前に、本書をよくお読みいただき、内容を理解されたうえでご使用ください。なお、本書は大切に保管し、必要なおきに活用ください。本書はCOM-MEの設置・配線について説明したものです。

詳細な取り扱いや各機能の操作などについては、別冊の**COM-ME-2 [SRZ対応版] 取扱説明書 (IMR02E39-J1C)** を参照してください。当社ホームページからダウンロードできます。ホームページアドレス: <https://www.rkcinst.co.jp/download-center/>

■ 付属品の確認

COM-ME-2 [SRZ対応版] 設置・配線取扱説明書 (本書)	1
COM-ME-2 [SRZ対応版] ホスト通信データ一覧 (IMR02E37-J1C)	1
COM-ME-2 [SRZ対応版] オブジェクトモデル (IMR02E38-J1C)	1
連結コネクタカバー (KSRZ-517A)	2
電源端子カバー (KSRZ-518A)	1

■ 安全上の注意

⚠ 警告

- 本製品の故障や異常によるシステムの重大な事故を防ぐため、外部に適切な保護回路を設置してください。
- すべての配線が終了するまで電源をONにしないでください。感電・火災・故障の原因になります。
- 本製品は、記載された仕様書の範囲外で使用しないでください。火災・故障の原因になります。
- 引火性・爆発性ガスのあるところでは使用しないでください。
- 電源端子など高電圧部に触らないでください。感電の恐れがあります。
- 本製品の分解、修理、および改造はしないでください。感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

- 本製品は、産業機械、工作機械、計測機器に使用されることを意図しています。(原子力設備および人命に係わる医療機器などには使用しないでください。)
- 本製品はクラスA機器です。本製品は家庭内環境において、電波障害を起こすことがあります。その場合には、使用者が十分な対策を行ってください。
- 本製品におけるすべての入出力信号ラインを、屋内で長さ 30 m 以上で配線する場合は、サージ防止のため適切なサージ抑制回路を設置してください。また、屋外に配線する場合は、配線の長さにかかわらず適切なサージ抑制回路を設置してください。
- 本製品は、計装パネルに設置して使用することを前提に製作されていますので、使用者が電源端子等の高電圧部に近づかないような処置を最終製品側で行ってください。
- 本書に記載されている注意事項を必ず守ってください。注意事項を守らずに使用すると、重大な傷害や事故を起こる可能性があります。また、本書の指示に従わない場合、本製品に備えられている保護が損なわれる恐れがあります。
- 配線を行うときは、各地域の規則に準拠してください。
- 本製品の故障による損傷を防ぐため、本製品に接続される電源ラインや高電流容量の入出力ラインに対しては、十分な遮断容量のある適切な過電流保護デバイス (ヒューズやサーキットブレーカーなど) によって回路保護を行ってください。
- 本製品の故障によって、制御不能になったり、警報出力が出なくなったりすることで、本製品に接続されている機器に危険を及ぼす恐れがあります。本製品が故障しても安全に使用できるように、最終製品に対して適切な対策を行ってください。
- 製品の中に金属片や導線の切りくずを入れないでください。感電・火災・故障の原因になります。端子ネジは記載されたトルクで確実に締めてください。締め付けが不完全だと、感電・火災の原因になります。
- 放熱を妨げないよう、本機の周辺をふさがないでご使用ください。また通風孔はふさがないでください。
- 不使用端子には何も接続しないでください。
- クリーニングは必ず電源をOFFにしてから行ってください。
- 本製品の汚れは柔らかい布で乾拭きしてください。なお、シンナ類は使用しないでください。変形、変色の恐れがあります。
- モジュラーコネクタは電話回線に接続しないでください。

ご使用前に

- 本書では、読者が電気関係、制御関係、コンピュータ関係および通信関係などの基礎知識を持っていることを前提としています。
- 本書で使用している図や数値例、画面例は、本書を理解しやすいように記載したものであり、その結果の動作を保証するものではありません。
- 以下に示す損害をユーザーや第三者が被っても、当社は一切の責任を負いません。
 - 本製品を使用した結果の影響による損害
 - 当社において予測不可能な本製品の欠陥による損害
 - 本製品の模倣品を使用した結果による損害
 - その他、すべての間接的損害
- 本製品を継続的かつ安全にご使用いただくために、定期的なメンテナンスが必要です。本製品の搭載部品には寿命があるものや経年変化するものがあります。
- 本書の記載内容は、お断りなく変更することがあります。本書の内容については、完全を期しておりますが、万が一不審な点やお気づきの点がありましたら、当社までご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で転載、複製することを禁じます。
- 本製品で使用されている記号には以下のものがあります。

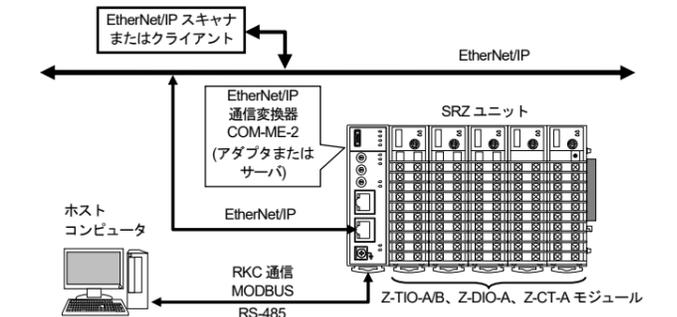
- ⚠ : 注意 (オペレータおよび機器を保護するため、取扱説明書の参照が必要な箇所にこの記号が付いています。)
- 本製品左側面のこの記号は、感電および機器故障に対する注意です。ご使用にあたっては以下の項目を必ずお読みください。
 - 安全上の注意の「警告」、3. 取付の「警告」、4. 配線の「警告」

輸出貿易管理令に関するご注意

大量破壊兵器等 (軍사용途・軍事設備等) で使用されることがない様、最終用途や最終客先を調査してください。なお、再販売についても不正に輸出されないよう、十分に注意してください。

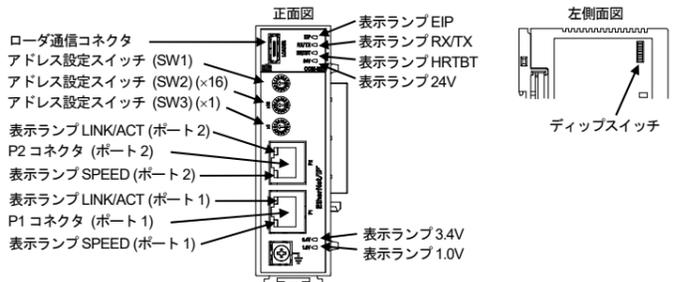
1. 概要

COM-ME-2 (以下COM-MEと称す) は、当社モジュールタイプ調節計SRZをEthernet/IP™ に接続するための通信変換器です。COM-MEはSRZの機能モジュール (Z-TIO-A/B、Z-DIO-A、Z-CT-Aモジュール) と連結して、多点の温度制御システムを構築できます。また、本書ではCOM-MEとSRZを連結したものをSRZユニットと呼びます。



2. 各部の名称

■ 本体

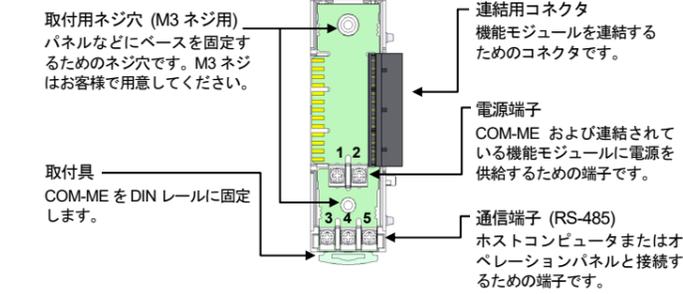


表示ランプ	説明
EIP [緑または赤]	● 電源 OFF または IP アドレスなし: 消灯 ● スイッチによる IP アドレス設定モード時 (IP アドレス設定または IP アドレスのデフォルト設定の場合): 緑ランプ点滅 ● ON LINE でコネクション未確立: 緑ランプ点滅 ● ON LINE でコネクション確立: 緑ランプ点灯 ● コネクションタイムアウト: 赤ランプ点滅 ● IP アドレスの重複、IP アドレスの設定が不正または重複発生時: 赤ランプ点灯
RX/TX [緑]	● ホスト通信のデータ送受信時: 緑ランプ点灯
HRT/BT [緑]	● 重複発生時: 消灯 ● ソフトウェア正常動作時: 緑ランプ点滅
24V [緑]	24V 電源正常供給時: 緑ランプ点灯
3.4V [緑]	3.4V 電源正常供給時: 緑ランプ点灯
1.0V [緑]	1.0V 電源正常供給時: 緑ランプ点灯
LINK/ACT (ポート 1/ポート 2) [緑]	● リンクなし/非通信状態: 消灯 ● リンク確立中またはデータ通信中: 緑ランプ点灯
SPEED (ポート 1/ポート 2) [黄]	● 100Mbps 時または非接続時: 消灯 ● 10Mbps 時: 黄ランプ点灯

通信コネクタ	説明
ローダ通信コネクタ	ローダ通信を行う場合に、通信変換器、パソコンと接続するためのコネクタです。
P1 コネクタ (ポート 1) P2 コネクタ (ポート 2)	ネットワーク通信 (Ethernet/IP) と接続するためのコネクタです。

スイッチ	説明
アドレス設定スイッチ (SW1)	● 運転時は使用しません。 ● IP アドレス設定時は IP アドレスの設定に使用します。
アドレス設定スイッチ (SW2, SW3) (×16, ×1)	● 運転時はホスト通信アドレスを 16 進数で設定します。 ● IP アドレス設定時は IP アドレスを 16 進数で設定します。
ディップスイッチ	● ホスト通信の通信速度および通信プロトコルを設定します。 ● ディップスイッチ設定の有効/無効を設定します。 ● IP アドレスの設定操作および動作方法を選択します。

■ ベース部



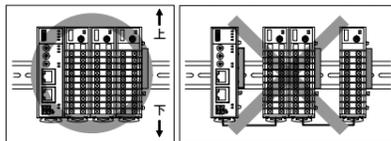
3. 取付

⚠ 警告

感電防止および機器故障防止のため、必ず電源を OFF にしてから本機器の取り付け、取り外しを行ってください。

3.1 取付上の注意

- 本機器は、つぎの環境仕様で使用されることを意図しています。 (IEC 61010-1) [汚染度 2]
 - 以下の周囲温度、周囲湿度の範囲内で使用してください。
 - 許容周囲温度: -10~+55 °C
 - 許容周囲湿度: 5~95 %RH (絶対湿度: MAX. W. C 29 g/m³ dry air at 101.3 kPa)
 - 設置環境条件: 屋内使用 高度 2000 m まで
 - 特に、つぎのような場所への取り付けは避けてください。
 - 温度変化が急激で結露するような場所
 - 腐食性ガス、可燃性ガスが発生する場所
 - 本体に直接振動、衝撃が伝わるような場所
 - 水、油、薬品、蒸気、湯気のかかる場所
 - 塵埃、塩分、鉄分の多い場所
 - 誘導障害が大きく、静電気、磁気、ノイズが発生しやすい場所
 - 冷暖房の空気が直接当たる場所
 - 直射日光の当たる場所
 - 輻射熱などによる熱蓄積の生じるような場所
- 取り付けを行う場合は、つぎのことを考慮してください。
 - 配線、保守、耐環境を考慮し、機器の上下は 50 mm 以上のスペースを確保してください。
 - 発熱量の大きい機器 (ヒータ、トランス、半導体操作器、大容量の抵抗) の真上に取り付けるのは避けてください。
 - 周囲温度が 55 °C 以上になるときは、強制ファンやクーラーなどで冷却してください。ただし、冷却した空気が本機器に直接当たらないようにしてください。
 - 耐ノイズ性能や安全性を向上させるため、高圧機器、動力線、動力機器からできるだけ離して取り付けてください。
 - 高圧機器: 同じ壁内での取り付けはしないでください。
 - 動力線: 200 mm 以上離して取り付けてください。
 - 動力機器: できるだけ離して取り付けてください。
 - 水平に取り付けてください。傾けた取り付けは、誤動作の原因になります。
 - COM-ME と SRZ の機能モジュールは、必ず連結して使用してください。



- 本機器の近くで、かつすぐに操作できる場所に、スイッチやサーキットブレーカーを設置してください。また、それらは本機器用の遮断デバイスであることを明示してください。

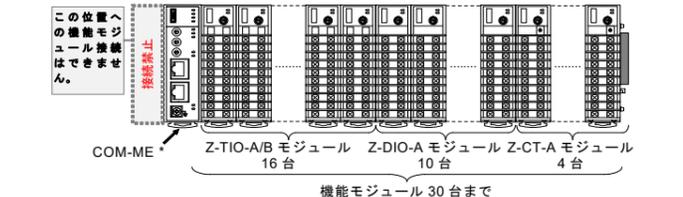
3.2 モジュールの連結

COM-ME と機能モジュールを連結する前に、ホスト通信の設定を行ってください。設定方法は、5. 通信設定 (裏面) を参照してください。

COM-ME 1 台に対して、機能モジュール (Z-TIO-A/B、Z-DIO-A、Z-CT-A) は以下の台数まで連結できます。COM-ME と機能モジュールの連結方法については、Z-TIO 取扱説明書 (IMS01T01-J1C) を参照してください。

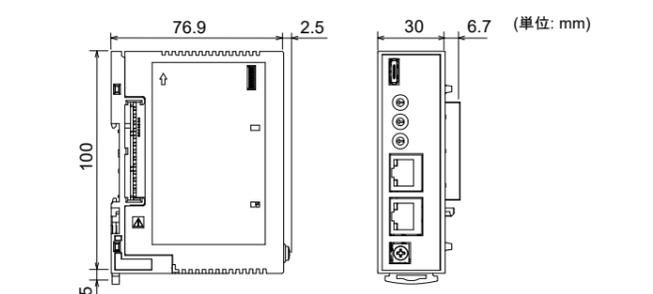
- 同じ種類の機能モジュールを接続する場合: 16 台まで
- 2 種類以上の機能モジュールを接続する場合: 30 台まで (ただし、同じ種類の機能モジュールの接続台数は 16 台まで)

[例] Z-TIO-A/B モジュール、Z-DIO-A モジュールおよび Z-CT-A モジュールを接続する場合 SRZ ユニット

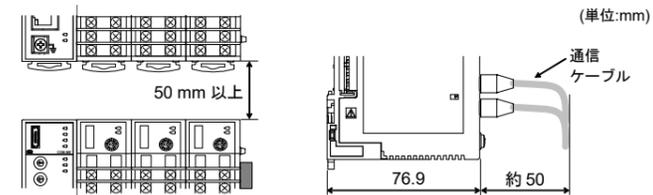


* COM-ME に、COM-ML および Z-COM を接続することはできません。

3.3 外形寸法



- COM-ME 上下間の取付間隔
 - 通信ケーブル取付時の奥行き
- COM-ME 本体の取り付けや取り外し時には、COM-ME 本体を少し斜めにする必要があるため、COM-ME の上下間に 50 mm 以上のスペースを確保してください。
- 通信ケーブルの配線スペースを考慮して、取り付けてください。



■ 取り付け、取り外し方法について

COM-ME の取り付け、取り外し方法は、機能モジュール (Z-TIO-A/B、Z-DIO-A、Z-CT-A) と同じです。DIN レール取り付けと、ネジ取り付けの方法があります。取り付け、取り外し方法については、Z-TIO 取扱説明書 (IMS01T01-J1C) を参照してください。

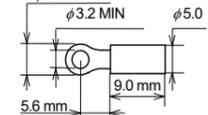
4. 配線

⚠ 警告

感電防止および機器故障防止のため、すべての配線が終了するまで電源を ON にしないでください。また、本機器への通電前には配線が正しいことを必ず確認してください。

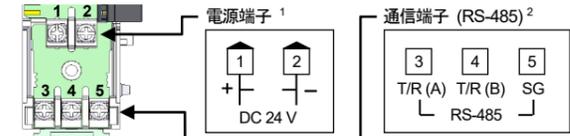
4.1 配線上の注意

- 通信線はノイズ誘導の影響を避けるため、計器電源線、動力電源線、負荷線から離して配線してください。
- 計器電源は、動力電源からのノイズ影響を受けないように配線してください。ノイズの影響を受けやすい場合には、ノイズフィルタの使用を推奨します。
 - 線材はより合わせてください。より合わせのピッチが短いほどノイズに対して効果的です。
 - ノイズフィルタは必ず接地されているパネル等に取り付け、ノイズフィルタ出力側と電源端子の配線は最短で行ってください。
 - ノイズフィルタ出力側の配線にヒューズ、スイッチなどを取り付けると、フィルタとしての効果が悪くなりますので行わないでください。
- 電源供給線は、電圧降下の少ない電線をついストしたうえで使用してください。
- 24V 電源仕様の製品には、電源に SELV 回路 (IEC 60950-1) からの電源を供給してください。最終用途機器には、適切な電源を供給してください。
 - 電源はエネルギー制限回路に適合 (最大電流 5.6 A) するもの
 - COM-ME と連結したモジュールの電源供給は、いずれか一つのモジュールまたは COM-ME で行ってください。連結したモジュールおよび COM-ME 間では、電源が相互に接続されています。
- 電源は、連結したモジュール (COM-ME 含む) の消費電力の総和に対応できるものを選択してください。また、電源 ON 時の突入電流値にも対応できるものを選択してください。消費電力: (最大負荷時) 最大 150 mA (DC 24 V 時) 突入電流: 15 A 以下
- 端子の配線には、端子間絶縁のため、必ず指定の圧着端子を使用してください。端子ネジサイズ: 電源端子および通信端子: M3×7 (5.8 × 5.8 角座付き) φ5.5 MAX φ3.2 MIN φ5.0
- 推奨締付トルク: 0.4 N・m
- 適用線材: 0.25~1.65 mm² の単線または撚り線
- 推奨圧着端子: 絶縁付き丸形端子 V.125-MS3 日本圧着端子製造 (株) 製
- 圧着端子などの導体部分が、隣接した導体部分 (端子等) と接触しないように注意してください。



4.2 端子構成

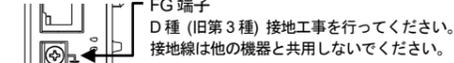
● ベース下部



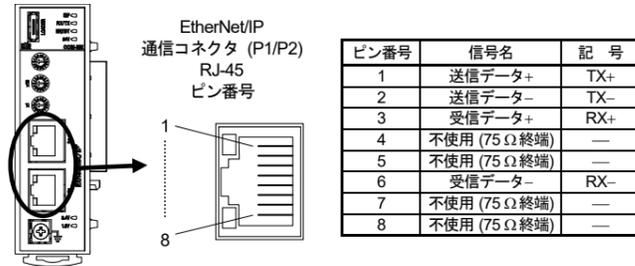
¹ COM-ME と連結したモジュールの電源供給は、いずれか一つのモジュールまたは COM-ME で行ってください。連結したモジュールおよび COM-ME 間では、電源が相互に接続されています。

² COM-ME と連結したモジュールの通信ラインは相互に接続されるので、通信端子への配線はいずれか一つのモジュールまたは COM-ME で行ってください。

● 正面下部

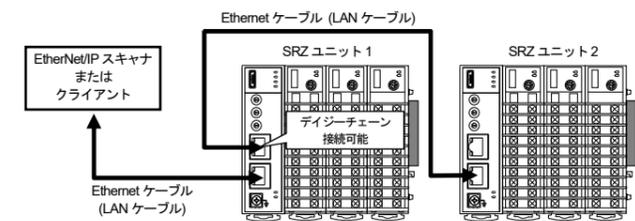


4.3 EtherNet/IP との接続



■ 接続例

市販の Ethernet ケーブル (LAN ケーブル) で接続できます。Ethernet ケーブル (LAN ケーブル) はお客様で用意してください。



Ethernet ケーブル (LAN ケーブル) は、ストレートケーブル、クロスケーブルのいずれでも使用できます。ただし、LAN ケーブルはカテゴリ 5 以上を使用してください。

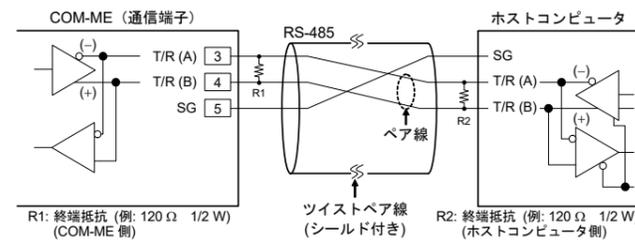
EtherNet/IP については、ODVA (Open DeviceNet Vender Association) のホームページを参照してください。
<https://www.odva.org/>

4.4 ホストコンピュータとの接続

通信インターフェース RS-485 でホストコンピュータと接続します。

■ 接続例

ホストコンピュータの 1 つの通信ポートに対して、すべての SRZ ユニット内の機能モジュール数を含めて 31 台まで接続できます。



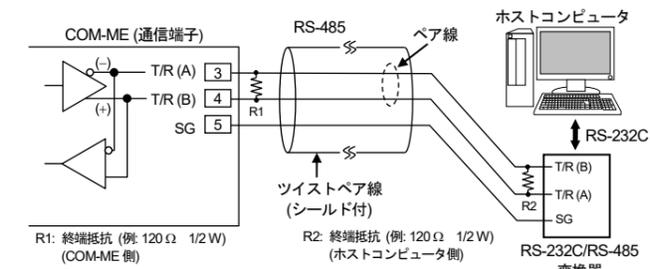
端子番号と信号内容

端子番号	信号名	記号
3	送受信データ	T/R (A)
4	送受信データ	T/R (B)
5	信号用接地	SG

使用環境や通信距離によって、通信エラーが頻繁に発生する場合は、ホストコンピュータ側に終端抵抗を接続してください。

● ホストコンピュータのインターフェースが RS-232C の場合

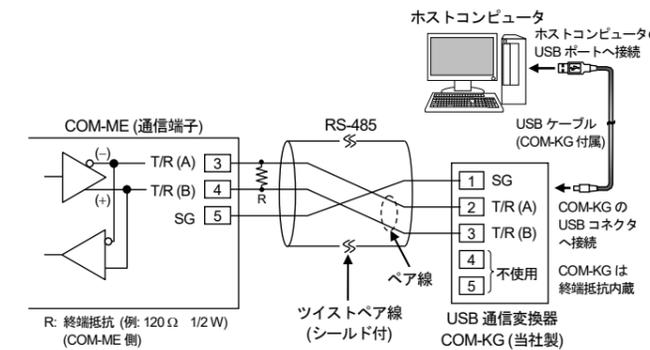
ホストコンピュータと COM-ME 間に、RS-232C/RS-485 変換器を接続します。



RS-232C/RS-485 変換器推奨品:
データリンク (株) 製 CD485、CD485V シリーズ相当品

● ホストコンピュータが USB 対応の場合

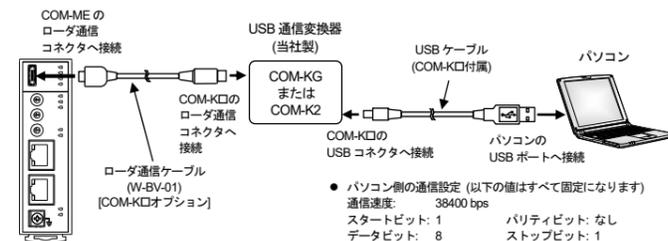
ホストコンピュータと COM-ME の間に、USB 通信変換器を接続します。



COM-KG については、COM-KG 取扱説明書を参照してください。また、当社製 USB 通信変換器 COM-K2 も使用できます。

■ ローダ通信

ホストコンピュータと COM-ME の間に、USB 通信変換器を接続します。



ローダ通信は、パラメータ設定専用です。制御中のデータロギング等には使用しないでください。

ローダ通信時、COM-ME に電源を供給してください。パソコンからの USB パスパワーだけでは COM-ME は動作しません。

ローダ通信時のモジュールアドレスは「0」固定です。

COM-KG については、COM-KG 取扱説明書を参照してください。また、当社製 USB 通信変換器 COM-K2 も使用できます。

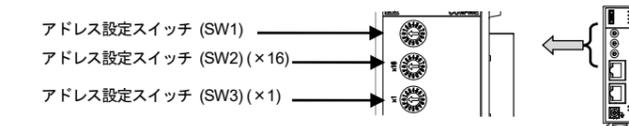
5. 通信設定

5.1 アドレスの設定

ホスト通信時のデバイスアドレス、各種ネットワーク通信時の IP アドレスを設定します。設定は小型のマイナスインプライバを使用してください。

同一ライン上では、アドレスが重複しないように設定してください。アドレスが重複すると、機器故障や誤動作の原因になります。

設定したアドレスを有効にするには、電源を一度 OFF にして再度 ON にしてください。



アドレス設定スイッチ (SW1): 運転時*: 不使用
IP アドレス設定時*: 設定操作**
設定範囲: 00~0Fh (出荷値: 00h)

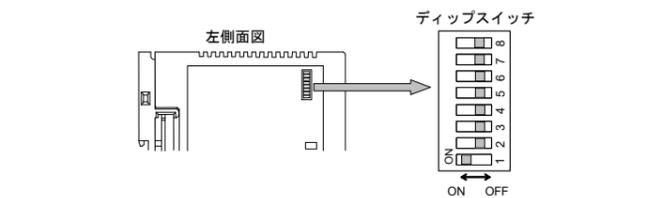
アドレス設定スイッチ (SW2): 運転時*: ホスト通信アドレス (上位)
IP アドレス設定時*: IP アドレス (上位)
設定範囲: 00~0Fh (出荷値: 00h)

アドレス設定スイッチ (SW3): 運転時*: ホスト通信アドレス (下位)
IP アドレス設定時*: IP アドレス (下位)
設定範囲: 00~0Fh (出荷値: 00h)

* 「運転時」と「IP アドレス設定時」の判別について
運転時: ディップスイッチ No. 6 が OFF かつ No. 7 が OFF で起動したとき
IP アドレス設定時: ディップスイッチ No. 6 が OFF かつ No. 7 が ON で起動したとき
** アドレス設定スイッチ (SW2, SW3) で設定した IP アドレスの入力と確認の操作に使用します。

5.2 アドレス以外の通信設定

ディップスイッチで、ホスト通信の通信速度、通信プロトコル、ディップスイッチ設定の有効/無効およびネットワーク通信の IP アドレス設定モードの動作を設定します。



1	2	ホスト通信速度	
OFF	OFF	9600 bps	
ON	OFF	19200 bps	← 出荷値
OFF	ON	38400 bps	
ON	ON	57600 bps	← 19200 bps
3		通信プロトコル/データビット構成	
OFF	RKC 通信 (データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット)		← 出荷値:
ON	MODBUS (データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット)		RKC 通信
4	5	固定 (設定変更禁止)	← 出荷値
OFF	OFF		
6	7	ネットワーク通信/ホスト通信の設定	← 出荷値
OFF	OFF	設定済み IP アドレスで動作	
ON	OFF	設定禁止	
OFF	ON	アドレス設定スイッチを使用した IP アドレス設定を行う	
ON	ON	IP アドレスのデフォルト設定動作	
8		ディップスイッチ設定の有効/無効	← 出荷値:
OFF	有効 (ディップスイッチの設定を有効にする場合)		有効
ON	無効 (ホスト通信またはローダ通信の設定を有効にする場合)*		

* ホスト通信またはローダ通信の設定で有効になるのは、ホスト通信の通信速度、通信プロトコル、およびデータビット構成のみです。

ディップスイッチで通信プロトコルを設定すると、データビット構成は自動的に「データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット」になります。別のデータビット構成にしたい場合は、ホスト通信またはローダ通信で設定してください。

データビット構成、ホスト通信速度および通信プロトコルを、ホスト通信またはローダ通信で設定する場合は、ディップスイッチの No. 8 を ON にしてから設定してください。

6. 仕様

■ EtherNet/IP 通信

物理層:	10BASE-T/100BASE-TX 自動認識
ユーザー層:	EtherNet/IP
対応メッセージ:	Explicit メッセージ、I/O メッセージ
コネクタ仕様:	RJ-45 × 2 ポート
IP アドレス:	0.0.0.0~255.255.255.255
サブネットマスク:	0.0.0.0~255.255.255.255

■ ホスト通信

インターフェース:	EIA 規格 RS-485 準拠
プロトコル:	RKC 通信 (ANSI X3.28-1976 サブカテゴリ 2.5 B1 準拠) MODBUS-RTU
通信速度:	9600 bps、19200 bps、38400 bps、57600 bps
最大接続数:	31 台 (全 SRZ ユニット内の接続機能モジュール含む)
接続方式:	端子台
終端抵抗:	外付けが必要

■ ローダ通信

接続方式:	当社製 USB 変換器 COM-K2 または COM-KG (いずれも別売り) のローダ通信ケーブルにて接続
プロトコル:	RKC 通信 (ANSI X3.28-1976 サブカテゴリ 2.5 B1 準拠)
通信速度:	38400 bps
最大接続数:	1 台

■ 一般仕様

電源電圧:	DC 24 V (定格)
電源電圧範囲:	DC 21.6 V~DC 26.4 V [電源電圧変動含む]
消費電力 (最大負荷時):	最大 150 mA (DC 24 V) 突入電流 15 A 以下
許容周囲温度:	-10~+55 °C
許容周囲湿度:	5~95 %RH (絶対湿度: MAX.W.C 29 g/m³ dry air at 101.3 kPa)
質量:	約 150 g

■ 規格

安全規格:	UL: UL 61010-1 cUL: CAN/CSA-C22.2 No.61010-1
CE/UKCA マーキング:	EMC: EN61326-1 RoHS: EN IEC 63000
RCM:	EN55011
環境条件:	汚染度 2 標高 2000 m 以下 (屋内使用)

7. 型式コード

COM-ME-25*02/□□
(1)(2) (3) (4)(5)

- ネットワーク
2: EtherNet/IP
- ホスト通信
5: RS-485
- 対応機種
02: SRZ
- 出荷時設定 (通信プロトコル指定)
なし: 通信プロトコル指定の出荷時設定なし*
1: 通信プロトコル指定の出荷時設定あり
- ホスト通信プロトコル
なし: 出荷時設定なしの場合は指定不要
1: RKC 通信 (ANSI X3.28-1976 サブカテゴリ 2.5 B1 準拠)
2: MODBUS

* 「通信プロトコル指定の出荷時設定なし」のときの出荷時設定
ホスト通信プロトコル: RKC 通信

■ 周辺アクセサリ (別売り)

- 通信変換器 COM-KG-1N (オプション: ローダ通信ケーブル付き)
- 通信変換器 COM-K2-1 (オプション: ローダ通信ケーブル付き)
- エンドプレート (DEP-01、2 個セット)

Ethernet およびイーサネットは富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
EtherNet/IP™ は ODVA の商標です。
MODBUS は Schneider Electric の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名や商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。 初版: 2022 年 9 月 [IMQ00]

RKC 理化工業株式会社
RKC INSTRUMENT INC.
ホームページ: <https://www.rkcinst.co.jp/>

本社 〒146-8515 東京都大田区久が原 5-16-6
TEL (03) 3751-8111 (代) FAX (03) 3754-3316 SEP. 2022

技術的なお問い合わせは、カスタマーサービス専用電話 TEL (03) 3755-6622 をご利用ください。